



沖縄の慰霊の日

6月23日は沖縄の「慰霊の日」。戦争で亡くなった島民や兵を悼み慰霊祭が行われる。石垣島の大浜公民館では「ぬついがふたばーらる」(平和の大黒柱ひろげよう)が開かれ、歌や踊りで戦没者を悼んだ。

そこで、特に素晴らしいのは郷土芸能部の中高生達が太鼓、三線、笛等を使い、伝統的な舞踊を披露したこと。

何故6月23日?

この日「沖縄での組織的な戦闘が終わった」と色々な文書にある。陸軍の司令官牛島中将は「指揮は不可能：各々陣地に拠り、所在上級者の指揮に従い、：最後まで敢闘せよ。：生きて虜囚の辱めを受くることなく」と命令。この意味は「軍組織は壊滅。もう負け

だが各自適当に戦え。降伏するな。死ね」と云ったような物。言葉とは裏腹に本人は米軍に突撃もせず自殺。

思い出すのは秀吉に水攻めにされた備中高松城の清水宗治。兵糧も尽き戦えなくなり、自分の命と引き替えに兵や住民の助命を秀吉に申し出て切腹。武士の鑑と云われた。

軍司令官が清水宗治のように米軍に云っていたら、どれだけ住民の命が助かった事だろう。

しかし日本軍は天皇の軍隊。住民を守る軍では無かった。

声高に「本土決戦」を叫ぶ軍部。その為に大勢の住民や動員された若者が犠牲になった。

その犠牲者を悼む慰霊の行事は日本全土で行われるべきと思う。あなたはこう思われますか?

八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑

沖縄県沖縄県石垣市石垣 県営バンナ公園

二〇二三年六月



太平洋戦争末期、沖縄本島には米軍が上陸、地上戦になった。が、石垣島を中心とする八重山では地上戦はなかった。それでも、空襲や艦砲射撃で島民は被害を受けた。

島民がそれ以上の被害を受けたのは日本軍の仕打ちだった。補給無しに配置された軍は住民の家畜、食料を奪い、島民が避難する壕を奪い、島民をマラリアの蔓延するジャングルに追いやった。

この為、八重山の人口三万二千人の内、一万七千名近くがマラリアにかかり、三千六百人余りが命を落とした。

日本軍は特効薬キニーネを持っていたが住民には渡さなかった。

その犠牲者を悼む碑が石垣島のバンナ公園にあり、慰霊の日(6月23日)には慰霊祭が行われた。

先々週、先週と二週続けて休みました

